

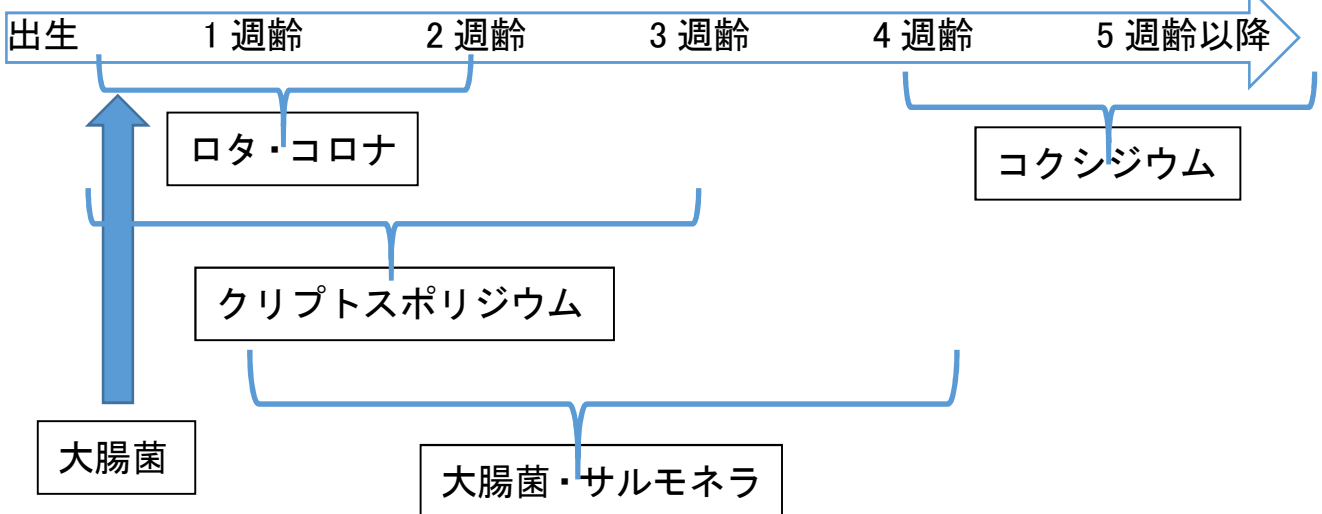
子牛を下痢から守りましょう

子牛の下痢は良好な発育を妨げるだけでなく、重篤な場合には死亡することもあります。また、免疫力の低下や体力の損耗を招くことで、他の病気(肺炎)等にもかかりやすくなります。ここで子牛の下痢を招く原因と対策をまとめてみました。子牛の管理を徹底し、下痢を予防しましょう。

➤子牛の下痢の原因は？

- 1・ウイルス ロタ アデノ コロナ 等
- 2・細菌 大腸菌 サルモネラ等
- 3・寄生虫 コクシジウム クリプトスポリジウム 線虫等
- 4・その他 非感染性下痢(食餌性等)

➤発生しやすい時期は



➤原因別の特徴は？

病名	ロタ	コロナ	アデノ	大腸菌	サルモネラ	コクシジウム	食餌性
便の性状	水様					水様～軟便	軟便
便の色	乳黄色	乳白色～黄色	灰白色	灰白色～黄色	黄灰白色	茶褐色	原因による
血便	×	×	○	○	○	○	×
その他		呼吸器症状伴うことあり	悪臭、呼吸器症状伴うことあり	悪臭	悪臭 発熱	低病原性は血便×	発熱なし

➤対策は？

- ① 農場への病原体の侵入を防止しましょう
 - ・車両や人の消毒の徹底
 - ・長靴の交換、防護服の着用
 - ・踏み込み消毒槽の設置 等

- ② 農場内での感染を防止しましょう
 - ・道具や人についた病原体を広げないため、哺育器具の洗浄・消毒、使い分けを行う。
 - ・下痢発症子牛の管理を最後にする等作業順序の変更を行う。
 - ・下痢発症子牛と健康子牛が直接触れ合わないようにする。

- ③ 病気にかかりにくい健康な子牛を育てましょう
 - ・母牛へのワクチン接種は有効です。
 - ・分娩前後の適切な管理を行う。
 - ・初乳を確実に給与する。
 - ・温度管理、換気に注意し、子牛のストレスを減らす。

- ④ 適切な治療を受けましょう。
 - ・重症化、感染拡大する前に早期に発見し、獣医師による治療（抗生物質の投与、補液等）を受けましょう。

神奈川県県央家畜保健衛生所

本所 〒243-0417 海老名市本郷3658
電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124
東部出張所 〒226-0015 横浜市緑区三保町2076
電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432

県央家保ホームページ

